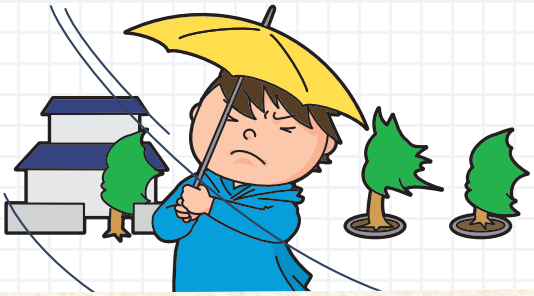
風水害の知識ー台風と集中豪雨

愛知県では、台風や集中豪雨によるさまざまな被害が発生しています。
ここでは、台風情報の見方などの基本的な知識や防災気象情報のチェック方法についてまとめました。

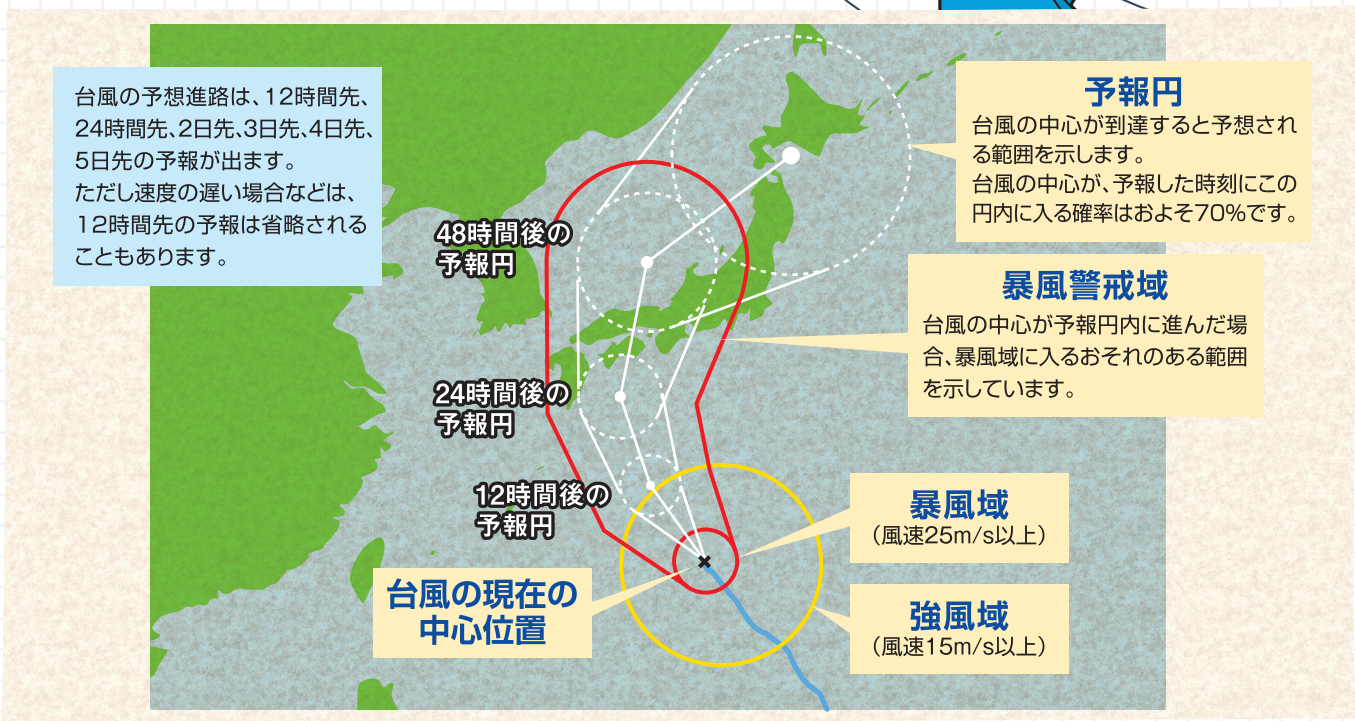
台風とは

熱帯の海上で発生する低気圧を「熱帯低気圧」と呼びますが、このうち中心付近の最大風速が17.2m/s（34ノット、風力8）以上になったものを「台風」と呼びます。

愛知県では過去に「伊勢湾台風」などの大きな台風がたびたび襲来しており、大きな被害が発生しています。



台風情報の見方



台風の大きさと強さ

気象庁は、台風のおおよその勢力を示す目安を、風速をもとにした台風の「大きさ」と「強さ」により表現します。大きさは、強風域（風速15m/s以上）の半径で、強さは最大風速で区分しています。

また強風域の内側で、風速25m/s以上の風が吹いていると予想される範囲を「暴風域」と呼びます。

台風に関する情報では、これらを組み合わせて「大型で強い台風」のように呼びます。

台風の大きさ

階　級	風速15m/s以上の強風域の半径
大型（大きい）	500km以上～800km未満
超大型（非常に大きい）	800km以上

台風の強さ

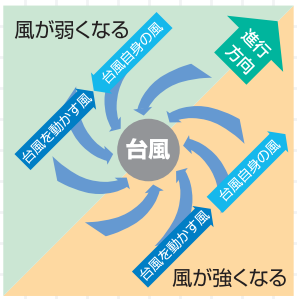
階　級	最大風速
強い	33m/s以上～44m/s未満
非常に強い	44m/s以上～54m/s未満
猛烈な	54m/s以上

台風による風の強さと吹き方

台風は巨大な空気の渦巻きになっており、その風は上から見て反時計回りに吹いています。

そのため、進行方向に向かって右側の半円では、台風自身の風と台風を移動させる周りの風が同じ方向に吹くため、風が強くなります。逆に左側の半円では、台風自身の風が逆になるので、右側に比べいくぶん弱くなります。

台風の眼に入ると風は急に弱くなりますが、眼の通過した後は風向きが反対の強い風が吹き返します。



風速10～15m/s	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。取り付けの不完全な看板などが飛び始める。
風速15～20m/s	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。ビニールハウスが壊れ始める。
風速20～25m/s	しっかり身体を確保しないと転倒する。飛来物で窓ガラスが割れる。
風速25m/s以上	立っていられない。屋外での行動は危険。取り付けの不完全な外装材が飛び始める。